

泳法、器具及びビーフィンに関する規則

CMAS 国際競技規則について、以下を第 28 回フィンスイミング日本選手権大会、およびそれ以降の日本国内大会で適用する。

1. サーフィス、CMASビーフィンの各泳法と15mルールについて

スタート及びターン後の潜泳について、CMAS（世界水中連盟）の国際競技規則を適用する。具体的には、スタート及びターン後の潜泳は15mまでとする。

～参考：Finswimming CMAS Rules（抜粋）～

○サーフィス（SF）

- ・ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能である。泳者のスノーケルもしくは頭が15mラインを越えるまでに水面から出なければならない。（2.2.1.2.）
- ・ サーフィスは、すべての距離で、呼吸にはスノーケルを使用しなければならない。（2.2.1.4）

○CMASビーフィン（BF）

- ・ 泳法は、スノーケルを装着して、胸から上においてはクロールとする。（2.2.4.1.）
- ・ ドルフィン泳は、スタートおよびターン後15m以内の無呼吸時のみ認められる。（2.2.4.2.）
- ・ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能である。泳者のスノーケルもしくは頭が15mラインを越えるまでに水面に出なければならない。（2.2.4.3.）
- ・ スタート時、フィンはスタートブロックの前方で、両脚を並行にそろえて構えられていなければならない。（2.2.4.4.）

■ 大会での適用について

- ・ サーフィス種目は、すべての距離でスノーケルを装着しないと失格となる。
- ・ サーフィスリレー種目においてビーフィン（FRP ビーフィン等）で泳ぐ場合も、スノーケルを装着すること。
- ・ ビーフィン種目でのスノーケル装着は、CMAS ビーフィン種目のみに適用する。

CMAS ビーフィン種目（50m、100m、200m）では、スノーケルを装着しないと失格となる。

- ・ スノーケルは口径 15mm以上 23mm以内で、長さは 430mm以上 480mm以内でなければならない。
- 素材についての規定はないが、透明素材のスノーケルを使用する場合は、先端から 10cm の部分全てに、鮮明な色のビニールテープを貼ること。

2. CMAS ビーフィン規則について

CMAS 国際競技規則において、使用可能なビーフィンの基準が定められている。今大会実施する CMAS ビーフィン種目は当該競技規則を適用する。使用が認められたビーフィンを用意の上、出場のこと。

■ 大会での適用について

- ・ CMAS ビーフィン種目に使用できるビーフィンは、CMAS のウェブサイトに掲載のあるフィンのみとする。(添付資料参照)
- ・ スタート時の姿勢について、前述のとおり、CMAS ビーフィン種目はフィンをスタートブロック前方で両脚を並行にそろえて構えることが規定されているので留意のこと。(違反者は失格)

3. J ビーフィン規則について

J ビーフィン種目 (50m、100m、200m、4×100mリレー) は日本固有の種目であり、以下のルールに則って実施する。

- ・ ビーフィン器具についてはいずれの素材/サイズのビーフィンも使用可能とする。
- ・ スノーケルを装着していなくても失格にはならない。
- ・ 水着の素材に関しては特に制限はないものとする。
- ・ スタート時の姿勢についても制限はないものとする。
- ・ ドルフィン泳は、スタートおよびターン後15m以内の無呼吸時のみ認められる。
- ・ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能とする。

4. 器具の放棄について

- ・ スタート時に装着していた器具 (フィン、スノーケル) をレース中に放棄した場合は、失格となる。

以 上